

## 2013（平成 25）年度自己点検・評価報告書の公表にあたって

全学自己点検・評価委員会委員長  
学 長 馬場 善久

『2013（平成 25）年度自己点検・評価報告書』を公表するにあたり、自己点検・評価活動の概要について一言ご紹介申し上げます。

本学では例年実施している自己点検・評価活動に加え、2013（平成 25）年度にいくつかの新しい試みを実施しました。

その第一は自己点検・評価活動の意義について、全学的な共通理解を図り再確認したことであります。具体的には例年 4 月に行われる全学の教職員対象の「教育ヴィジョン」説明会において、研究・教育、管理・運営、社会貢献の全般にわたる自己点検・評価活動が、たんに報告書の作成のためにあるのではなく、大学のより一層の改革と、さらなる社会的使命の達成のためにあることと、そのための内部質保証の仕組み確立の重要性を確認しました。

第二に内部質保証体制の確立へ向けて、「創価大学内部質保証ポリシー」を策定して方針を明確化し、広報誌やホームページを通じて公表しました。

第三にさらにその一環として、自己点検評価の客観性、公平性を高める目的で、外部評価委員会を設置しました。全学的取り組みを評価する総合評価委員 3 名と、各学部研究科を評価する専門評価委員 7 名を高等教育に精通する学外者に依頼し、本学の自己点検・評価活動について、報告書と実地調査をもとに評価を実施しました。

第四に自己点検・評価活動を F D ・ S D 活動※として位置づけるよう試みました。報告書執筆者を対象にした二度にわたる実務者研修会を経て、9 月には大学基準協会大学評価・研究部長・工藤潤氏を招いて全学教職員を対象に、とりわけ基準 I の理念・目的をテーマに、その検証と時代に応じた展開についての理解を深めるシンポジウムを開催しました。このシンポジウムは落成間もない中央教育棟での最初の会合ともなり、参加者にとって建学の精神に思いをさせ、本学の社会的使命を確認する最適の機会となりました。

今後は今回の点検・評価作業を通じて整備された本学の内部質保証体制を、教育研究活動ならびに管理運営等の諸活動の改善へつなげるべく有効に機能させていくよう努力して参ります。

最後になりますが、日頃からの本学へのご支援に感謝申し上げますとともに、本学の自己点検・評価活動が改善・改革につながるよう、本報告書に対し、皆様からの貴重なご意見・ご指摘を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

※ F D（ファカルティ・ディベロップメント）、S D（スタッフ・ディベロップメント）

2014 年 3 月